第23号（No1）　酒々井町郷土研究会々報　昭和57年1月12日(火)

酒々井町 郷土研究会々報

第23号
昭和57.1.12
発行 酒々井町郷土研究会総務部

酒々井の草分け考

相京晴次

酒々井町下宿の深山武男さん方からたくさんの古文書が最近発見されました。この中の数冊は酒々井の歴史を知る上で大変貴重な資料ですが、その中の一冊に、年号はついておりませんが、江戸時代初期と推察できる「下総国印東之郡佐倉内酒々井之郷水帳」があります。この古文書は七冊のうちの一冊だけで、当時の住人と思われる五十七戸の屋敷の面積を記したものでありますがこの書の終りに「酒々井町切立引越貳拾五人等」として二十五人の氏名が記されております。「切立」とは草分け開発などの意味でありましょう。

「印旛郡誌」によりますと、酒々井宿の開発者は、天正十九年鹿島宿（本町）から移った、筋隼人、嶋田新右エ門、筋善左エ門、小高三右エ門、深山勘解由、深山長左エ門、中台治左エ門、鶴岡新右エ門、大谷源左エ門、渡利權左エ門、筋亨左エ門、の十一家となっているのですが、深山家文書では二十五人となっているのは注目すべきでありましょう。

酒々井町切立引越貳拾五人等

篠田大隅　片岡源左エ門
内藤五郎左エ門　土鹿田主水
小川外記　鶴岡四郎左エ門
筋総次郎　山崎治郎兵衛
吉田友右エ門　大谷源右エ門
嶋田新右エ門　小田治郎右エ門
林田左次右エ門　深山惣右エ門
大谷新右エ門　吉田勘解由
石井四郎右エ門　日暮弥左エ門
三ッ本弥兵衛　中山善内
大塚平右エ門　加藤善兵衛
嶋田四郎右エ門　中台治左エ門
大谷治郎右エ門
メ貳拾五人外に跡より引越
天野万五郎　清宮小右エ門
酒々井町切立本町より引越参り候者共

以上が深山家文書の人名であります。

前記十一家と対比して人名の違いをどう理解すべきか研究の余地があります。

天正十八年、本佐倉城主であった千葉氏の滅亡によって城下に居住していた家臣団は禄を失い、新しい生活を求めて離合集散した中で、前記の人達は酒々井宿の開発にあたり、酒々井宿の基礎をつくったものと解すべきでありましょう。

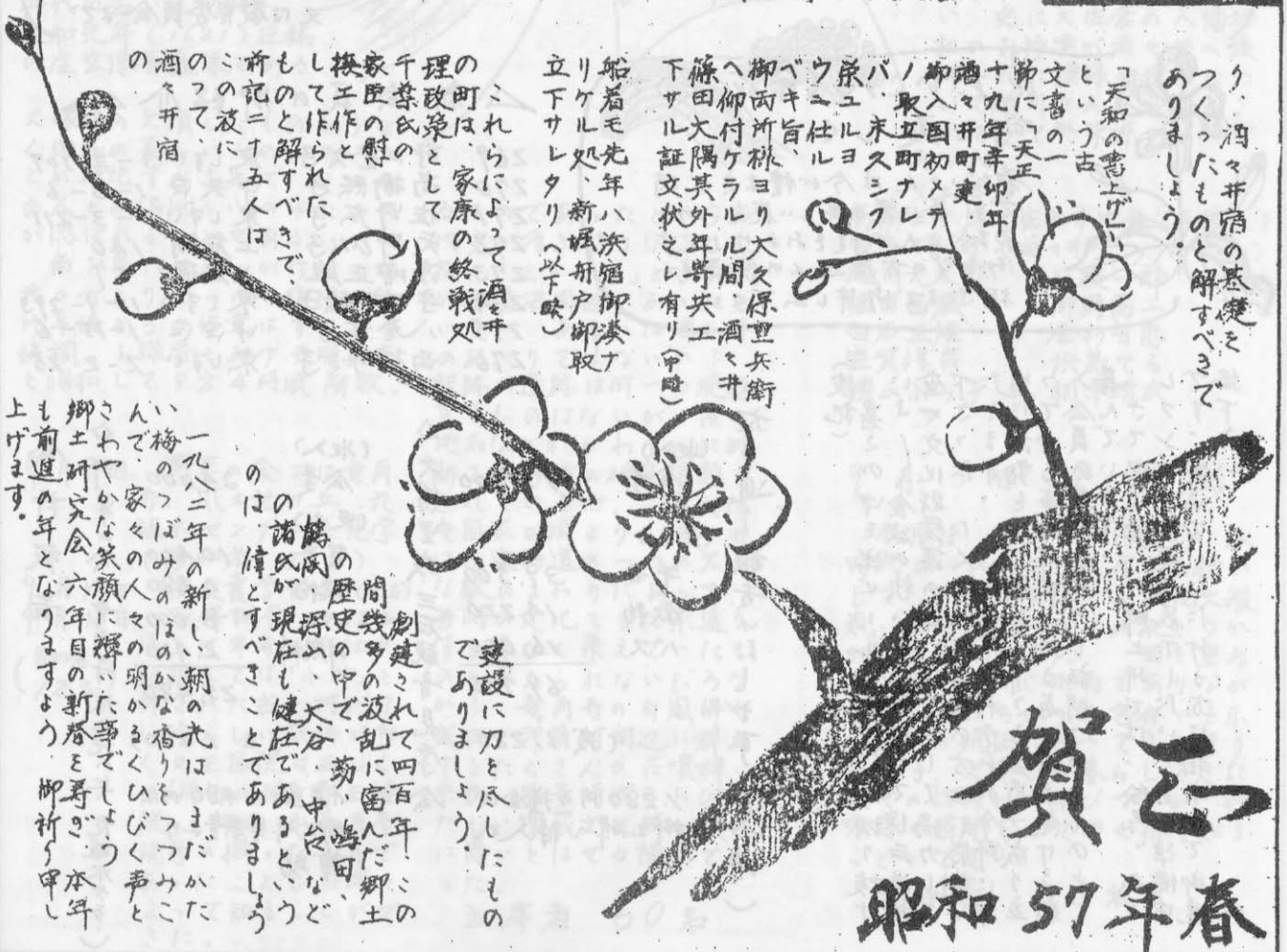
「天和の書上げ」という古文書の一節に「天正十九年辛卯年酒々井町建御入国初メテノ取立町ナレバ、末久シク泉ユルヨウニ仕ルベキ旨、御両所様ヨリ大久保豊兵衛へ仰付ケラルル間、酒々井篠田大隅其外年寄共工下サル証文状之レ有リ（中略）

船着モ先年ハ浜宿御湊ナリケル処、新堀舟戸御取立下サレタリ（以下略）

これらによって酒々井の町は、家康の終戦処理政策として千葉氏の家臣の慰撫工作として作られたものと解すべきで、前記二十五人はこの波にのって、酒々井宿の建設に力を尽したものでありましょう。

創建されて四百年、この間幾多の波乱に富んだ郷土の歴史の中で、筋、嶋田、鶴岡、深山、大谷、中台などの諸氏が現在も健在であるというのは、偉とすべきことでありましょう。

一九八二年の新しい朝の光は、まだかたい梅のつぼみのほのかな香りをつつみこんで、家々の人々の明かるくひびく声とさわやかな笑顔に輝いた事でしょう。郷土研究会六年目の新春を寿ぎ、本年も前進の年となりますよう、御祈り申し上げます。


賀正
昭和57年春

○衛門さんと○兵衛さん

沖田善三郎

古村の家を尋ねるとき、屋号の「○衛門さん」とか「○兵衛さん」の家とか言わないと、苗字だけではわからないことがよくあります。何故こんなに○兵衛さんや○衛門さんが多いのでしょうか。実はこの衛門と兵衛は、一千年以上も前の衛門府という役所の官名で、中古以来帝都の守りについた近衛兵の官名で、人名ではありません。

当時この兵役につくと課税を免除されることになっておりました。最初の頃は制度もきちんとしており、退役すれば戸籍も訂正されましたが、だんだん制度が乱れてくると帰農しても尚、戸籍上は兵衛・衛門府の衛士であるようにして課税を免がれようとしました。中には最初から行かないのに行っているような申告をした家もあったかも知れません。

人がやることは、今も昔もたいして変りがないようですね。

醍醐天皇の頃、播磨の国ではこの国の百姓の過半数が、六衛府の官人と称し課役を出さないという文書が残されているくらいです。

村では、この人達が帰農しても尚、官名で「○衛門さん」とか「○兵衛さん」と尊称して呼んだものと思われ、子孫もそれを代々受けついで来たものでしょう。「兵衛」「衛門」だけでは人の区別ができませんので、本身の氏の一字を官名の上につけ、例えば藤原氏本身であれば「藤兵衛」とか「藤右(左)衛門」として区別しました。

代表的な氏をあげれば次の通りです。

①源ー源氏　②平ー平氏
③橘(吉)ー橘氏　④菅(管・勘)ー菅原氏
⑤江(郷)ー大江氏　⑥清ー清原氏
⑦中(忠)ー中原氏　⑧安ー安部氏
⑨紀(木・喜・記・儀)ー紀氏
⑩善ー三善氏　⑪丹ー丹治氏
⑫野ー小野氏　⑬田(伝)ー田口氏
⑭神(井)ー大神氏　⑮長ー長谷部氏
⑯倉(惣・総)ー惟宗氏
⑰文ー文屋氏
⑱高(幸・孝)ー高階氏　……など

尚、大部兵衛や次部右衛門の太部・次部は一長男・次男。与一兵衛は、十一番目の男。孫兵衛、彦左衛門は孫であり、方である順位を表わします。

後代、官名であることが失われ、勝手に「○兵衛」「○衛門」を名乗るようになりましたが相当古くから知れ渡っている家であれば、前記の氏を表わす一字によって本身の氏を知ることが出来ます。

さて、貴方の家の本性は何氏でしょう。……？……。

○○○○石仏調査大活躍

円福院にて54基を発掘！

会田秀雄

昭和五十五年十一月十九日に第一回の円福院の調査を開始しましてより二回・三回……と回を増すごとに台石や石仏が続々と発掘されました。その数なんと五十四基！驚くべき数となり、調査班の面々もこれからが最後の仕上げと、緊張の中にも意欲的な意気いよいよ高まり、新年度を迎えました。

（円福院石仏の内容）

種類	数	造立年月日
板碑型	18基	承応二年・明暦元年・寛文四～九年
駒形型	3基	元禄二年・宝永四年・嘉永七年
櫛形型	16基	宝永・享保・宝暦・安永・明和・天明・天保
角柱型	4基	寛政年間
自然石型	1基	明治三十一年
聖観音	3体	延宝四年・宝永元年

「聖観音」（聖観世音菩薩）は、後に十一面・千手・如意輪・馬頭・不空羂索・准胝などの変化観音が現われてくるため、これと区別し最初の観音ということから聖(正)観音と称するようになりました。一切の衆生を観察して自在にこれを救済する現世利益を本願とします。

種類	数	造立年月日
地蔵尊	3体	正徳年間
如意輪観音	6体	延保七年・安永二年・享保三年・宝暦七年

「如意輪観音」、如意とは如意宝珠のことで、意のままに欲しいと思ったらどんなものでも必ずかなえられる珠ということで輪は法輪で教えということです。代表的なものは一面六臂で右手第一手と頬につけて思惟しているのは地獄道を救ってくれる誓願なのです。

「地蔵菩薩」は人々の苦しみや悩み願いごとなど全てかなえてくれる大悲の心が大地の中に生れ育む力が蔵されているということから名付けられました。

郷土研日誌

10月8日	古文書学習会　出席者	7名
10月9日	野草の会（雌蛇が池へ泉自然公園）	26名
10月11日	石佛調査　尾上地区	7名
10月14日	史談会	8名
11月10日	古文書学習会	8名
11月8日	石佛調査（伊篠地区）	10名
11月14日	史談会（下岩橋のまつりと民俗）	12名
11月17日	史跡見学会（滑川、佐原方面）	43名
20日		35名
12月5日	史談会（伊篠のまつりと民俗）	10名
12月7日	運営委員会	18名
12月13日	石佛調査　伊篠新田	8名

新しい仲間、どうぞよろしく。

277　石渡喜一
278　小倉恒義
279　中台千代
280　山田栄四郎
281　斉藤喜久子
282　永松ミネ
283　村島とし
284　青木礼一

「酒々井町の年中行事」

これから御紹介します「酒々井町の年中行事」は、大正末期あるいは昭和初期ごろに、当時酒々井尋常小学校訓導であった鵜飼とめ、加瀬はなの両氏が学務のかたわら二、三年がかりで収録されて、印旛郡教育展覧会に出展・受賞されたものです。その原本が水野藤舟の手許にあったのを、昭和十年に故押尾源蔵（翠村）氏が筆写されたものです。

四方拝

元旦未明に起き出て若水を汲み身を浄めて初日の出を拝し産土神に詣ブこれ皇祖皇宗を祭り天地四方の神々を拝すという敬神崇祖の意を表わすものならん老人には此の事をよく為すを見るも若き者にはこの風なり何とぞ誰にもこの風この心欲しきものなり。

松の内、雑煮祝

元日　早朝に起き出で若水にで雑煮を仕立て神々の祭をなし門に国旗を掲げきて一家打揃いて年頭の辞を交し雑煮を祝う

神棚飾　年神様には注連縄を張り渡し中央に譲葉、橙等を添えその両側に松の小枝も添える神前には神酒、鏡餅を供う其の他佛前　荒神様　恵比須様稲荷様等　其の家々により祀れる神々の前には輪飾り松枝を飾り鏡餅を供うること前の如し。普通神棚と称するは天照大神を祀れる所をいい之を年神様として祭る

この他に床の間飾をするものは常の掛軸を目出度物に変えその前に大なる鏡餅を供え一そう上にゆづり葉、橙等を置く　されど尚活花、盆栽をおくもあり。伊勢殿など飾るは殆どなし　この床の間飾りも少数の家のみ

雑煮材料は大根の銀杏切、里芋、蒸芽を用いて澄汁を作る。餅には焼を入るるもあり　又何も入れざる澄汁とするもあり　食するには大根の乾葉を焼きて揉み入れ花鰹をかくるが多く、中には、これ更に青海苔を入れるもあり　これに時食膳についひぬまこんにゃくといいて添準を寒天様に流し固めたるものを添う、乾菜の「いひぬまこんにゃく」も餅の消化を助くる効ありという。

雑煮を祝うことは部落により家により期間を異にすれど略左の如し

三日　伊篠、八木野、上岩橋郷　上本佐倉
五日　酒々井中宿　下台、馬車場、上ケ崎
七日　上宿下宿、新堀　尾上　飯積　柏木、墨
　　　下岩橋、その他の上岩橋

この間は朝毎に神棚に燈明を付け雑煮を供う　雑煮は普通の餅を小さく切りて器に入れ雑煮の杯餅と入れて供う、器は年神様の重箱とて白木造の小さきお重様のものを用うるが多く、中には鮑貝、小皿等を用うるもあり。

○百五十ページにわたり酒々井の町の人々の年間の行事が記された貴重な記録です　又次号にて御紹介いたします。

第23号（No.4）　酒々井町郷土研究会々報　昭和57年1月12日（火）

郷土研 行事計画

	一月	二月	三月
昭和57年度 定時総会 ○六年目をむかえて会員も300名に近づきつつある郷土研のこれからの活動の源としてたくさんの方の声を聞かせて下さい	1月23日（土）　午後1:00（受付）、1:30（開会）中央公民館 (1) 56年度事業報告及び収支決算報告 (2) 会計監査報告 (3) 56年度事業報告及び収支決算の承認 (4) 57年度事業計画及び収支予算の承認 (5) その他 尚　議事終了後は昨年同様、会員の方々のアトラクションでお楽しみ下さい。又新入会員、57年度会費（￥1,000）も受け付け致します。		
石佛調査		2/14（日）AM 9:00 中央公民館 伊篠新田方面（雨天中止）	3/14（日）AM 9:00 中央公民館 柏木・下岩橋方面（雨天中止）
野草の会	2/6（土）　AM 11:00～　中央公民館和室 七草かゆを食べる会（会費 500円　定員 50名） ○台所を手伝って下さる方、今回もよろしくお願いします		3/13（土）PM 1:00 ・京成酒々井駅集合 宗吾～下方方面へ （雨天中止）
古文書学習会		2/13（土）PM 1:30～ 中央公民館	3/6（土）PM 1:30～ 中央公民館
史跡見学会	3月5日（金）Aはん　AM 9:00 役場出発 3月9日（火）Bはん　会費￥1,000（昼食含）先着 名はん35名 （コース） 八千代市 鳴鶯寺～小金本土寺～布施の弁天～滝水寺 ○　申込みは 96－1171 教育委員会 又は 相京まで		
文化財愛護活動	2/21（日）　AM 9:00　青年研修所 集合　（雨天中止）代替日 2月28日（日） 上岩橋貝層の藪刈り（午前中） （持参品）鎌、ノコギリ、ナタ、等いずれでも……作業用の服そうで！		

会計報告

10/13　野草の会（雁蛇池他）
△二、二四〇円を郷土研より補助

11/17, 20　佐原方面見学会
△一一、四二〇円を郷土研より補助

12/10, 11　房州一泊見学会
残七、六〇〇円を郷土研へ繰り入れ

上記の通り報告いたします（京増）

（後記）

毎年……想うお正月の夢……。

誰れも起き出さないうちに起きて初日の出を拝み、まっ白なエプロンをつけて雑煮を作る、夫と子供達を初湯のゆげの中に見ながら真新しい着物を着せ、打ち揃って新年のあいさつを交しながらおとそをいただき・おもむろにお年玉など渡して明かるい笑顔と高らかな話らいの中に賀状など読んで・友の息災を喜び合う。夜は遅くまで百人一首やトランプなどして一年分の子供達へのサービスに徹することにつとめ・初夢なども忘れないようにしっかりと見る……。二日は皆起きる頃には掃除などして、さっぱりとした部室で書初めなどもしたい……などなど……と。しかして現実は――大晦日から歩き続けて一番乗りの初詣は良しとして帰りついて朝風呂の仕度をすれば故障して火は点かず・寒の始抱いてともかく眠る・目が覚めると次から次へと来客の接待三が日をジーパン姿で……あゝ無情

(M)